

在厦門領事館

VU91

下
卷
首

REEL No. 1-0232

0046

寫

明治四年五月廿日
同 四 一 年 五 月 廿 日
日起草 日發遣

送第三〇号

主任

在厦門領事 外十ヶ所

大臣

新聞紙ニ關スル報告及取扱

送付方訓令ノ件

全文畧

編者附言 原書在清國公使館の部ニ在リ

外務省

山打天

新聞出、要否、以調指告、件

公第八五號

一三一四三

若月三十日付送若三〇号ヲ以テ

新聞出、要否、以調指告、件

新聞出、要否、以調指告、件

新聞出、要否、以調指告、件

新聞出、要否、以調指告、件

新聞出、要否、以調指告、件

新聞出、要否、以調指告、件

新聞出、要否、以調指告、件

新聞出、要否、以調指告、件

廈門日本領事館

外務書記生大杉西之

外務大臣伯爵林董殿

別記

新聞出、要否、以調指告、件

一頁

本館、至義、日中、文以、情
因、鼓吹、諺、導、俗、費、之、困、り
第、三、卷、序、人、基、礎、之、學、園、と、
ル、と、立、り

二 持主

此中各寺系圖皆標百圓ノ
法人担擧ニシテ臺灣人江保生
之シカ代表高タリ

三 主筆

主筆ハ臺灣人江保生ナリ
シテ二名ノ記者(島岡人)ヲ付シ
置キ其ノシテシテシ

四 系統

若地ニ留臺灣人勢力扶植
機業タリ

五 概カ

本誌ハ昨年ハ月中創刊セシモノ

ニシテ未タ勢力カトシテ向ニツキ
ノノナキモ現今一月七日
ノノナキモ現今一月七日

ノノナキモ現今一月七日
ノノナキモ現今一月七日

一 二 三 四 五

一 二 三 四 五

本誌ノ主筆ハ福世鉄道ノ成
業ヲ圖リ標ノ事ヲ著集スル
ニシ

二 持主

此中各寺七千圓一標拾圓ノ
法人担擧ニシテ島岡人黄猷

十九年代表名あり

三 五

清國人黄献 十九年三月廿一日

之ヲ普及シシニ居リ

四 系

中 外ハ皆シテ 福生 船 路 公 司

総 裁 陳 漢 傑、 横 翼、 シテ

同 公 司、 係 護 シ 交 ケ 居 リ

五 勢

本 地、 勢、 日 本、 廣 島、 等

一、 日 本、 及、 シ、 一、 月、 廿、 日

一、 日、 本、 及、 シ、 一、 月、 廿、 日

諸 島、 出 發、 シ、 船、 路、 公、 司

漢 集、 勢、 日、 本、 廣、 島、 等

以 上

(3)

甲子年十二月十九日

様書第百八号

小お大

在厚河修

新書第百八号

書知之... 新書第百八号... 甲子年十二月十九日... 様書第百八号... 在厚河修... 新書第百八号... 甲子年十二月十九日... 様書第百八号... 在厚河修...

付... 甲子年十二月十九日... 様書第百八号... 在厚河修...

甲子年十二月十九日... 様書第百八号... 在厚河修...

第2門

明治四十三年一月十二日接受 主務政務局

公第一號

受第824號

附屬第一號

明治四十三年一月四日

在厚内

佐藤任陸 吉村安三郎

外務大臣佐藤外村新太郎殿

新中紙現以閣下稟報件
案年十二月未調書也新中紙狀及別
紙通了方し此後亦閣下未成否此
外申此後致具

身動書
合

四十三年二月廿七日記録一部受

在厚内本帝國領事館

新聞紙視況 (甲午年十月未調)

厦門日報 (清文)

主義

福建鉄道ノ成業シ圖リ事業成陸ノ目
變ニ事成陸ナリシ報告シヨク株金ノ募集
スニ事トシテ其後無名ノ関シテ其高初代國ト利
害未及馳セシアリオナリ我國ニ対シテ其善ニ良
好感情ヲ有スルニ蓋シ免レセ所ニシテ本報ノ如キ
モ時々我國ニ対シテ其利差等ニ記事ヲ掲載スルアリ
吾人殊ニ注目シ要スル新聞ナリ

在清厦門日本帝國領事館

本報ニ法人組織ニシテ設ク者當時葉老七之シ
代表者トシテ資本七千四百元トシ福建鉄道會社ニ三
千四百元トシ補助スルトシ其餘一千七百元トシ他國
トモ其株主トシ多ク福建鉄道會社ニ重役ト
シ現任副総幹葉老七等録ル如キ其大株主ト
リ其第一作年十月末國艦隊客航ノ
際葉老七等當時名劉慶治嚴劉
達トモ附厦門分府鈕侯藩ト劉慶治トハ
頗不和ニシテオナリ再三矢張ソ電ホシテサアリシ
程ナリ其米國艦隊船也順備等ノオナリ
オナリ自スニ事トシ紐ト割シ認スル詩ニテ其篇ヲ
作リ之ニ印刷シ付シ是後船場ニシテ官民
配布スル事實アリ比印刷物厦門日報誌

ニ於テ印刷費トシテ案算シ劉一葉老セテ物
持シテ版権板責セシ釈放セリヤ直ニ編為
此書セリ中ノ本報ニ鉄道會社立務ト
ホリ之事世人紛議ナリト是を以テ持主ニ該鉄
道會社ト持テ可ク現ニ鉄道會社家屋一部ヲ
以テ該報館ニ使田ニ充テマツ

主筆

葉老セカ代表者シリン頃ハ黃歐ナシモ主筆ナリ
ホ業此書ト同時ニ急ガシ業ヲ親戚ニ告シ業
果シ編綴係トシ社從其他一般評論的記事
ニ該鉄道會社立務之ヲ起草シ著シ書記
ニ書シ傳ヘテ起筆セシム如ク故ニ同ハ主筆
トシ名義ヲホスニ表ナシ

左列ノ諸君日本帝國領事館

備考

本報ニ今更ニ約二年前南洋鐵道會社ノ編綴係
送會社ノ機関新聞中ニ一論ニテ該鉄
道會社ニ本報館設立當時ニ千円ヲ補助
セシムトナラシメ該千円ノ數度ニ分テ其後此
特費トシテ毎月千円ノ補助ニマツテ一
送會社ノ立務ニ資シテ之ヲ補助シ中ニ
依リ實際定規補助ヲホシマツヤセテ大
疑向ニ属シ本報館ノ前途ニ憂ヒモクテ
力ニ全固新聞報及不問一毎ノ條リ紙數
六七百枚ニ過ギズ其カニ南洋各地ニ行
最モ多ク送會社アリ是ノ業ニ該鉄道
會社ノ持主ニ南洋ニ多ク是等ノ持主ニ該會

社成陸シ本報ニ多新リ知ラ得ん状態ニ先
以ニ後地方ニ比較的ヨリ購読者多ク不
ニナリ

全洲新日報(情文)

主義

日本之此レ德國ニ數次ニ筆ヲ多僑人使宜
討ルニ在リ

持主

資本金六千五百元一様一巨元持人但誠ニ
ニ多僑人江保生之ニ代表ス

主筆

江保生ニ本報代表者ニシテ主筆ナリ
備有

在清廈門日本帝國領事館

本報ハ明治三十二年八月創立ニシテ各地在留多
僑人勢力扶植、機關シテ厦門口路ト競業
ニテ常ニ優勢地位ニ在リ毎日常報紙數部
一千枚厦門ヲ中心トシテ津浦、京滬、福省、上
海、廣東、多港、及南洋各地ニ送達セラル

寫

明治四年四月廿六日

送弟六郎

明治四年四月廿六日

五郎

山村公勝

山村公勝

此中河之字を以て報者方件

此報者内之字を以て河之字を以て報

告之る家之字を以て河之字を以て報

告之る家之字を以て河之字を以て報

告之る家之字を以て河之字を以て報

保書ハ香港(送弟六郎)ノ部ナリ

外 務 省

山村公勝

復 校正 原

明治四拾四年四月十五日接受

公第 六八號

警政務局

受第 1069

第一課附屬書類添付

明治四十四年四月十二日

（印）

在厦領事代理領事官補大野正雄

外務大臣伯爵松本大郎殿

新設紙現況報告書

各地新設紙現況報告書
本局別紙之由
及
本局報告書
中
送
紙
本
局

宮野

第 2 門

四十四年四月二十八日 警政務局一部受

安部

（印）

厦門：於テ発行スル新聞紙状況

厦門日報（漢文）

主義 福建鉄道會社ノ事業成績ヲ報告シ且ツ
資金募集ノ便ヲ圖ルニ在リ而シテ曰鉄道ノ株
主ハ多クハ不領菲律賓地方ヲ在ルヲ以テ往
ニ親不主義ヲ唱又我國ニ出シ面白カラサル記
事ヲ掲載スルコトアリ

持主 福建鉄道會社役員ノ出資ノ係リ曰會
社ヲ補助人全ク交付セル由ニシテ持主ハ鉄
道會社ト云フモ不可ナシ

主筆 目下主筆ノ名義ク有スルモノナク
社役員等ニ於テ便宜編輯シマア

在清厦門日本帝國領事館

系統 前記、如ク福建鉄道ノ標（天行少ナリ）

勢力 發行部數五六百ト過ヤス南地方及南洋
方面ニ讀者ク有レ其勢力ハ格別ナラス

全周新聞日報（漢文）

主筆 日本、文明ヲ鼓吹シ日本、利益ヲ擁護
シ台湾人、便宜ヲ圖ルニ在リ

持主 清國人台湾人、合資組織ニシテ台湾
人江保生之ヲ代表ス

主筆 持主代表者江保生主筆ナリ
系統 全然日本系統ニシテ常ニ厦門日報

下競争セリ

勢力 發行部數一千餘ニシテ去年十二月
中一子号ニ達シ紙面ヲ擴張シタルヲ以

テ漸次讀者ヲ増加シマアリ販路ハ厦門・
漳州・泉州・台湾及南洋方面ニシテ厦門日
報ニ比シテ勢カク有ストモ何レヨリモ補助金
ヲ受ケス且ツ尚余利益ナキヲ以テ経営困難
ナルモノト知レ

在清厦門日本帝國領事館

明治四十四年三月五日 接受

主務政務局

公第一九六號

明治四十四年十一月十八日

在厦門

領事菊池義郎

外務大臣子爵内田康哉殿

新聞ニ関シ報告之件

附屬書類添附

第2/門

支29042號

當地漢字新聞厦門日報ハ欠損多シ收支
 續ハ廿ルカ高ク清歴八月三十日(陽歴十月十日)
 限リ廢刊シ又清歴九月十日(陽歴十月三日)
 リ南声日報者刊致候ニ付同報ニ于シ
 取調候處別紙ノ通り有之候向御査
 究相成度外段及御報告候致具

在清厦門日本帝國領事館

南聲日報

一主義 民権主義の革命思想を喧伝する

二社

一持主 資本金一萬二千圓にして各地清國人

合資組織あり

一主筆 張海珊

一系統 革命党の機關

一勢力 發行後日尚ほ盛なり且目下奉天を除

く各地市人等も愛する發行部數千

二三百に達す内七百餘部は各地四五

百部は福建各地上海及南洋方面に讀

者も存す

在清廈門日本帝國領事館

附

第01883號

明治四十五年一月十四日接受 主營政務局

公第一〇號

明治四十五年一月十三日

在厦門

領事菊池義郎

外務大臣子爵内田康哉殿

厦門ニ於テ新聞紙狀況報告ニ付

當地ニ於テ發行スル新聞紙狀況
別紙ニ通及報告候敬具

在清厦門日本帝國領事館

頁

厦門ニ於テ發行スル新聞紙狀況

南聲 (漢文)

主義 民權ヲ主張シ革命思想ヲ鼓

吹スルニヤリ

持主 當地清國人ノ合資組織

ニ係ルモノニシテ資本金ハ一萬

二千四百十ルガ如シ而シテ之ガ代

表者ハ清國人黃登元ナリ

主筆 清國人徐屏山之レガ主筆ナリ

系統 客年十月三日ヨリ新ニ發行

シテ革命党之機關トス

勢力 發行後日尚ホ淺クシテ勢

カトシテハ微クモルモノナレバ客

在清厦門皇帝國領事館

年十月中旬革命党蜂起

シテヨリ漸次勢力ヲ増シ天下

發行部數ハ千部ニ達シタル

モノノ如ク内七百餘部ハ當地

方ニ三分部ハ福建各地上海及

南洋方面ニ讀者ヲ有ス

全國新日報 (漢文)

主義 日本ノ文明ヲ鼓吹スルト同時ニ

日本ノ利益ヲ擁護シ台湾人ノ

便益ヲ圖ルニ在リ

持主 清國人及台湾人ノ合資組

織ニシテ台湾人江保生之ヲ代表ス

主筆持主代表者江保生之レガ主

系 統 筆タリ 全然日本系統ニシテ常ニ南

勢 力 徒令五六年前ノ設立ニ係ル

此ヲアウヤルノミナラス一昨四十

三年十二月申一千号ニ達シテ

以テ讀者ノ數ニ増加シ且下

若行都教千三四万部ニ達シ

厦門、漳州、泉州、台湾及南

洋方面ニ販路ヲ有スレトモ何

レヨリニ補助金ヲ受ケズ尚且ツ

利益少キヲ以テ恒ニ困難ナ

ルカ也

在清厦門日本帝國領事館

附屬書類

受14728號

明治四拾五年六月拾七日發

善政務局

第一課

公第六四號

明治四十五年五月三十日

在厦門

領事 菊池 義郎

外務大臣子爵内田康哉殿

新聞紙ニ于テ報告之件

若月廿四日付送第3。號ヲ以テ當該管
 内新聞紙ニ于テ取調報告方御訓令
 趣致兼致テ就示右取調御送付、別紙
 二補正、上及御回送、向御査閲相
 成度此致申進、敬具
在清厦門日本帝國領事館

手紙

21

厦門

新聞名稱	主 義	持 主	主 筆	備 考
廈門日報 (漢文)	福建振道會社 福建銀行 福建會館 福建同業公會 福建實業公司 福建銀行 福建會館 福建同業公會 福建實業公司	福建振道會社		福建振道會社機關、資本七千七百元、發行部 數百本
全閩日報 (漢文)	日本文明ヲ普及シ ノ便宜ヲ計ルニ在 リ	合資組織 代表者臺灣人 江保生	江保生	明治四十年八月創刊、資本金六千五百元、 發行部數約一千
南聲日報 (漢文)	民権ヲ鼓吹シ共和 政治ヲ促進スニ在 リ	合資組織 代表者又即人 蘇大山	曹鴻翔	明治四十四年三月三日創刊、資本一千五百元、 發行部數約千四百、單政府、機關

附屬書類添付第一七

交03060

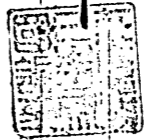
大正貳年貳月 拾日 總務局

第一號

大正二年一月三十一日

在廈門

領事菊池義郎



外務大臣男爵加藤高明殿

廈門ニ於テ發行スル新聞紙
狀況報告之件

當地ニ於テ發行スル新聞紙狀況
別紙之通り及報告表敬具

在廈門日本領事館

廈門ニ於テ發行スル新聞狀況

南聲 (漢文)

主義 自由民權ヲ主張シ政治ノ革新ヲ

圖ルニ在リ

持主 當地方人ノ合資組織ニ係ルモノニシテ

資本金一萬二千九百元之レガ代表

者ハ支那人陳蘊 刪ナリ

系統 一昨四十四年十月三日 初メテ設立後

行セシモノニシテ之レガ前身ハ廈門日報

也本紙所謂革命思想ヲ有スル當

地方人士ニ依リテ成リタルモノニシテ彼等

一派ノ機關紙トシテ前報ニ同シ

勢力 原本本紙ノ系統ノ部ニ於テ速ハタル

在廈門日本領事館

方如ク革命命黨派ノ機關紙タルト同

時ニ發行ノ時期及其經過ニ於テ時

代思潮ニ適セルノ結果逐日其勢ヲ

扶植シツアル當地方第一ノ新聞紙ト

リ今其一日ノ印刷高ニ至リテハ一千

三百部内外而之レガ頒布ノ割合

當地方即漳泉ニ為ニ八百部ヲ其他

五百部ハ海外重々南洋方面ナリ

主筆 支那人黃鴻翔ナリ

全園新日報 (漢文)

主義 日本ノ文明ヲ鼓吹シ同時ニ日本ノ利

益ヲ擁護シ台湾人ノ便益ヲ圖ルナリ

持主 台湾人及清國人、合資組織ニシテ
 台湾人江保生之レガ代表者ナリ
 主筆 持主代表者江保生之レガ主筆ナリ
 系統 全然日本系統ニシテ常ニ南聲ト
 競争シ居レリ
 勢力 従今五六年前ノ設立ニ係ルモノニシテ
 一時ハ當地ニ於ケル有力新聞紙ナリ
 レモ一昨年未尚地ニ革命動亂、起リ
 シ以來其機關紙タル南聲ヲ壓倒
 セラレ昔日ノ勢力ハ幾分減退セリ一日
 ノ発行部数ハ一千内外ニシテ其額
 者ハ漳泉ニ及及台湾南洋ニアリ

在厦門日本領事館

聲應日報 (漢文)

主義 政府ヲ監督シ民權ヲ擁護スルニ存リ
 持主 當地方支那ノ青年及學生等、合
 資組織ニシテ資本金ハ五六千元外ニテ
 而シテ之レガ代表者ハ林幸福ナリ
 系統 本紙ハ昨大正元年十二月初メテ當地ニ
 於テ発行セシモノナルガ去月年及學生等
 等ノ過激ナル輩ノ機關紙ナリ
 勢力 本紙ハ前述セルガ如ク発行以來日尚
 淺クシテ勢力トシテ何等見ル可キ
 モナク又資本金ノ如キモ僅少ニシテ充
 分ナル設備ヲ整ハサレカ如ク記者ノ
 如キハ為メニ無報酬ニテ一人ノ受持

トシ今ノ義務トシテ執筆ニ括レリ一日ノ
發行部數ハ五百枚ニシテ其多クハ當地
青年學生間ニ頒布セラル
主筆支那人康蔭田ナリ

在厦門日本領事館

大正貳年七月拾四日接受

註政務局 第一課

公第一二六六號

大正二年十月三十日

在厦門

領事 菊池義郎

外務省男爵牧野伸顯殿

超然日報奉刊ニ因シ報告件

當地台湾人ニテ超然日報ニ名稱下ニ左記
如キ方法ヲ以テ漢字新聞ヲ発行致ス付其
後及御報告美故具

一 主義

在厦門日本領事館

本報ハ台湾及厦門ニテ聯絡シ互ニ相提携
シ不偏不党民智ヲ開発シ資力ニ在リ

一 持主

台湾人及支那人ノ合資ニシテ資本金ニ千九
百元
台湾人 張有枚 代表ス

一 主筆

台湾人 王子鵬 主筆
明治三十四年二月ヨリ三十五年十月迄台湾
日々新聞報録主筆ニ勤セシム且辭職シ更ニ
四十二年二月ヨリ四十四年十月迄同新聞報社外
記者トナリシガ故アリシ辭シタリシニ度四十五年
五月ヨリ報社ニテ大正二年七月迄社外記者トシ
ガ本報ニ奉刊シ際シ同報社ニ係ラ絶テリ

しんせう

海山七

第2120號

一 系統

台湾系統に属ス

一 創立時期

大正三年十月九日

一 発刊部数

発刊後日尚キ接リ紙面ニ格メテハサテ勢力強
ト見ルニ定ラズサテ発行部数如キ僅カニ
四五万枚ヲ出スルベシ

在厦門日本領事館

0073

REEL No. 1-0232

大正參年壹月廿九日接
駐政務局 第一課 係

公第 六 號

大正三年一月十六日

上海

領事 菊池 義 市

外務省 田中 義 郎 領 事 館 啟

新 報 廣 告 一 年

一 新 報 題 號

超 然 報

一 社 長 氏 名

台 灣 人 張 景 枝

一 發 行 所

厦 門 市 德 安 街

右 從 事 商 也 於 此 啟 事 致 告 諸 君

在 厦 門 日 本 領 事 館

今 報 廣 告 一 年 之 內 在 報 法 之 知 悉 亦 出 如 數 告 申 此 啟 事 致 告 諸 君

受 02250 號

附 四 卷 一

只 一

附屬書類添附

大正三年貳月 六日接為

警務局

課務

02952

第一一號

大正三年一月二十日

在廈門

領事 菊池義郎



外務大臣野田伸顯殿

廈門警察新聞狀況報告件

本件新聞紙及報章同御査閱相
成度矣 敬具

呈

在廈門日本領事館

廈門ニ於ケル新聞状況

一 南聲

主義

自由民権ヲ主張シ政治革新ヲ旨
スルナリ

持主

当地商人、合資組織ニシテ資本主
トシテ五千元ニシテ代表者トシテ李慕林様

系統

明治四十四年十月三日創刊ニシテ今
日更リタレモ、ナルガ其前身ハ廈門日報
ニシテ尚初純革命派ニ属スル人トシテ提
倡セリテ設立シタルモノナルガ昨年来ニテ
革命派ニ不振ト共ニ近來官僚派、
氣息ヲ窺フカ如キ状態ニシテ在リ

在廈門日本領事館

勢力

袁派ノ天下トナルヤ本紙勢力甚敷失墜シ
主筆黃鴻翔ハ逃亡シ昨日九月ヨリ
十月ニ至ルハ四十日休刊スルニ至リ且カ其ノ
多大ノ打撃ヲ蒙リ從來一牛三石即
内外ノ有利者ト有シタルカ目下ハ九石即
内方ニ在行スルニシ

主筆

文即人 李慕林様

主義

日本ノ文明ヲ鼓吹シ同時ニ吾等ノ利益
ヲ擁護シ台湾人ノ便利ヲ圖ルニシ

持主

台湾人及支那人、合資組織ニシテ台湾人
ヲ保護シ本紙ヲ代表ス

系統

全然日本系統ニ属シ常ニ南聲ト競

争ス

勢力本紙の創立以来六年自下各地に自取
古より一時南聲の爲めに壓倒せられたる昨
秋以来南聲の勢力次第に弱し其の現る
地は往々最勢カク有る後乃ち教
二の上り

以上

因に聲意日報の昨年九月過激な記事
の掲載シタる爲に發行停止の命せられたる
未償還本不且手の因り再發行スルに能
か最近迄の流利なること

左門日本領事官

03902

大正三年五月四日 發

駐政務局

第一課

公第五二號

大正三年四月二十日

在厦門

領事 菊池 義郎

外務大臣 野澤 加藤 高明 殿

南聲日報 廢刊ニ干スル件

本報之因シ從來屢々御報告ノ次第有
之(最近本年一月二十日付第〇一號)其處
本年四月二日因紙上ニ「何前速而後速」ト
題レ當地觀察使衙門ニ於テ引現任觀

厦門日本帝國領事館

察使着任當時、訴訟事件務敏捷
且ツ法規ニ基キ受件費ヲ徴收セザリレニ近
未極メテ緩慢トナレルハ各科長ニ於テ報告
ノ暇ナキカ抑モ又受件費ナキオノ受件人ニ於
テ之ヲ怠慢ニ付セルニ係ルカトテ暗ニ觀察
使ヲ恫制レ使テ四月三日時評權ニ於テ
攻撃シタルニ由リ官憲ノ忌避ニ觸レ思明係
リ、口紙編輯人ヲ處罰セラレタルニ由リ、口
紙ハ四月十三日政界ノ干渉ヲ受ケタルニ因リ、徒
續辨理スルヲ願フストテ廢刊ヲ希表シ、又
ルカ、口紙ノ廢刊ノ理由ハ一面主トシテ財政
上ノ困難ト近來第三革命防遏ノ手段トシ
テ官憲ノ壓迫急カニ申リ、去々後程ニ慮

見直し

リタルニ由レモノト推測セラト云
右及御報告美敬具

廈門日本帝國領事館

REEL No. 1-0232

0079